

社説

県内近海の全域で捕れるサメの一種「アブラツノザメ」の商品開発への取り組みが進んでいる。

弘太大学院保健学科の野坂大喜講師らが青森市の鮮魚卸とサメ加工80年の老舗田向商店との共同研究で、アブラツノザメの頭部軟骨に悪性腫瘍を成長させる酵素の一部を抑制する効果があることをマウス実験で確認した。

腫瘍をマウスに移植し調査したところ、サメ頭部の軟骨粉末入りの餌を食べさせたマウスの生存率が高い

アブラツノザメ

抗腫瘍効果さらに研究を

ことが判明。大腸がんや膵

(すい)がんなどの腫瘍の成長に必要とされる酵素2種類の働きを阻害した。

効能の根拠となるエビデ

県によると、2009年のサメ漁獲量は約1883トと全国トップ級。漁獲に

は他のサメも交じるが大

がアブラツノザメだ。県

辺のサメは縄文のころから

食べられていたことは遺跡

などからも知られている。

が、アブラツノザメは代替資源になるとされる。他企

業と連携するなど、商業化

につなぐと期待される。

研究はその一歩となる。

アブラツノザメは、県内

では刺し身のほか、「スク

メ」料理、煮付け、焼きサ

メ、ちくわ、おでん、そば

などに生かされている。

ただ、近年は消費者の魚

離れで鮮魚店も減少、経営

環境は悪化。この状況から

県が田向商店と連携、08年

度には21あおもり産業総合

支援センターが事業化し助

成、これまで捨ててきたア

ブラツノザメの頭部軟骨からコンドロイチン、コラー

ゲンを抽出、「サメ軟骨」

製品化にこぎつけた。

一方、弘太保健学科は同

商店と昨年夏から、全国中

小企業団体中央会の補助を

受けサメ軟骨のエビデンス

を研究してきた。現在、産

学の研究を支援する弘大G

OGOファンドの採択を受

け、抗腫瘍効果のほか生活

習慣病でも追加試験を実施

中で、成果が期待される。

サメ軟骨がガマズミの実

(三戸町)琥珀(こはく)

にんにく(田子町)など多く

の製品と有力な地サプリに

成長することを望みたい。

野坂講師は革新的なもの

でなくても、地元の健康志

向に役立つ仕事をしていき

たい考えた。サバや野辺地

町の茶がゆで知られる一年

草のカワラケツメイの効能

も研究中だ。同商店の田向

常城専務は「価格低迷の中、

サメの体すべてを生かせな

いかと考えてきた。しっか

りとした実験結果で初めて

価値は生じる。地サプリは

伸びてきている。地道に取

り組みたい」と話す。

アブラツノザメの消費拡

大へ、県内生産、加工、流

通業者らが団結し6次産業

化を目指している。産学官

の研究も産業振興、ひいて

は本県サメ漁を守ることに

つながってほしい。